

平成23年10月21日

大学コンソーシアムやまがた  
構成機関の長 殿

大学コンソーシアムやまがた  
会長 結城章夫

大学コンソーシアムやまがた総会  
(平成23年度第2回(書面))について(報告)

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成23年10月12日付け文書によりお諮りいたしました、協議事項(1 ゆうキャンパス・ステーションの契約更新 2 平成24年度「ゆうキャンパス・ステーション」の運営に経費かかる各機関負担)については、東北公益文科大学、東北文教大学及び県立保健医療大学から別紙の通りご意見をいただいたものの、特段の異議はありませんでしたので、原案どおりご承認いただいたものとして取り扱わせていただきます。

なお、ゆうキャンパス・ステーションにかかる運営費を負担できない機関におかれましては、引き続き負担金の予算確保に向けてご努力いただきますようお願いいたします。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

—担当—

大学コンソーシアムやまがた事務局  
山形大学大学連携推進室 樋口浩朗

TEL : 023-628-4804

e-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

## 【別紙】

### 【東北公益文科大学のご意見】

この度の協議事案である「ゆうキャンパス・ステーションの継続」については、異議無く了承いたします。

ただし、「ゆうキャンパス・ステーション」運営負担金について、負担の全くない機関があることに些か疑問を感じます。「ゆうキャンパス・ステーション」については、大学コンソーシアムの中核事業として、平成22年2月に発表した「ゆうキャンパス—学長共同宣言 美しいやまがたからの人づくり」を目指して」を県内高等教育機関の学長が賛同し、それを具現化する場所、事業展開する拠点をとって設けたものと認識しており、平成23年度における大学コンソーシアムやまがたの事業においても、各種事業の中核を担う拠点となってきた現状があります。

事業の主旨は県内の高等教育機関が共同して、その魅力のアップ、学生に対するサービスの提供等を目的としたものと理解しておりますが、その意味からも責任と負担の共有化が欠かせないと考えております。

これを機に、改めて「ゆうキャンパス」設置の基本や組織形態を議論するべきかもしれません。

### 【東北文教大学のご意見】

大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業として、一昨年5月8日に「ゆうキャンパス・ステーション」がオープンしました。「ゆうキャンパス・ステーション」は、地の利を生かし、所期の目的と事業を着々と遂行してきました。

そこで、総会の資料「平成24年度 ゆうキャンパス・ステーション運営負担金（案）」を拝見したところ、昨年度も同様に意見を付しましたが、次年度も4校より運営負担金の拠出がないままに運営費編成がされております。

活動拠点として全機関が同意した上での事業と考えており、やはり、運営費の再編成か、機関拠出を再度お願いするかの必要性があるのではないかと意見を付させていただきます。

### 【県立保健医療大学のご意見】

協議事項1については賛否を保留します。

(理由)

ゆうキャンパス・ステーションの運営について本学では費用対効果などを考慮し、その経費を負担していないこと等から、本件について賛成の立場を取ることが難しいため、賛否については保留とします。

(なお、運営費負担金案において、本学の負担の金額を「0」としていただいたことについては御配慮に感謝いたします。)

以上